

2013年6月17日

(株)グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
代表取締役社長 梅原 肇 様

グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン工場内でウラン容器接触事故に係わり、事故原因の究明と安全対策・再発防止についての申し入れ

神奈川県労働組合総連合
原水爆禁止神奈川県協議会
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県平和委員会
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
連絡先；原水爆禁止神奈川県協議会
横浜市中区野毛町2-16 大沢ビル4A
TEL 045(231)6284

6月13日(木)11時39分頃、貴社工場内で、ウラン粉末が入った金属製の容器2つが接触する事故がありました。このような事態が生じた原因は、貴社ホームページによると核的制限値に係るインターロックが作動しなかったために、2缶のウラン粉末缶が接触したと説明されています。

ウランは一定量以上が集まると核分裂が連鎖的に続く臨海が起こる恐れがあるとされています。今回の接触による核分裂・臨界はなかったと説明されていますが、臨界や作業員への被爆、環境への放射性物質放出の可能性のある作動不良の事象が起きたことに、地元市民はもちろん、多くの県民が不安と憂慮の念を強くしています。

貴社はこれまでも、火災、放射性廃棄物ドラム缶からの液体漏えい、設備・機器の作動ミスや不具合など幾多の事象・事故を起こしています。このことは、工場が住宅地の中にあること、ひとたび重大事故が発生すれば近隣住民はもとより、おおくの横須賀市民・県民を放射能被害にさらすことにつながります。貴社は、このような認識・自覚が希薄、不十分であると指摘せざるを得ません。東京電力福島第1原発事故の事態・推移は、放射能に係わる事故がどれ程市民生活と環境を破壊するかを如実に示しています。

貴社に強く反省を求めるとともに、次の点を申し入れます。

記

1. 今回、搬送コンベアにおいて、あってはならないウラン缶の接触が、なぜ起こったのか、安全装置がなぜ作動しなかったのか、その原因について明らかにされたい。
2. 今後、今回のような事象・事故の再発防止の対策をどう講じているのか明らかにされたい。
3. 事故原因と対策が明らかになり次第、その情報を市民に公開されたい。
4. 貴社が、横須賀市の人口密集地、臨海地に核燃料工場を立地しているが、事故や地震・津波などによる重大な放射能事故を回避するため、工場の移転が必要と考える。貴社の見解を明らかにされたい。

以 上